もちつきは意気を合わせて威勢よくいかなきゃ！（詳細はＰ８）

やすらぎ

No.34
2007新年号
平成19年１月15日発行

主な内容

新年のごあいさつ　Ｐ２
ねんりん　Ｐ３
シリーズ「特養を考える」　Ｐ４
「七峰荘」宿泊研修のご報告　Ｐ４～Ｐ５
事例研究発表会　Ｐ６

新年のごあいさつ

迎春

社会福祉法人　やすらぎ会
理事長　深澤　貞夫

平成19年は、やすらぎ会が発足して10年を迎える節目の年であります。特別養護老人ホームぶなの園は、公設民営の施設として10年を経過しようとしております。入所者や利用者の利便性・過ごしやすさを第一にしながら、家族・地域に信頼される施設運営に努め、地域福祉向上の一端を担ってまいりました。

現在ぶなの園入所者の平均年齢は84.9歳、男女比は１：４、要介護度別では、５が17名、４が13名、３が11名、２が６名、１が３名となっております。介護を必要とする人に人間らしい生活を提供するためには、一人ひとりの介護度に応じた高い技術と心のケアが必要です。介護専門職としての職員には利用者を大切に思う気持ちを、状況に応じて適切に表現することが求められます。そしてゆとり・静けさ・うるおいのある生活空間を形成していかなければなりません。

介護保険制度下においての営業は、サービスの提供先となる被保険者（利用者）を意図的に施設に誘いこむことも必要になってきます。入所者・利用者の確保に向けて自ら出向いて、関係機関・家庭を回る積極性も求められているところです。そのためにも、介護サービスが適切に提供できるよう介護職・看護職等の人材を確保・維持していくことが重要です。また、利用者が施設を選択利用することができるようになるので、介護保険事業への取り組み状況、リハビリ効果による生活動作能力の向上、イベント・ボランティアの施設における活動状況などの情報を積極的に公開していくことも重要になってきます。

介護の現場では、リスク（危険性）予防対策も充実させなければなりません。職員は危機管理意識の高揚と共に、報告・連絡・相談を適確に行なえるよう、業務に心身共に良好な状態で臨めるよう努めなければなりません。

19年度はやすらぎ会運営の施設が、公設民営から完全民営化へと移行する準備段階に当たるので、管理運営体制と財務管理の健全性の確保に努め、効率的な運営ができるようにしなければなりません。

ねんりん

新田　巴さん（長瀬野）
生活支援ハウス
かたくりの園ご利用

年配の方の長い人生の足跡は、楽しいことも、辛いこともすべてその方の『今』を創っているものであり、年輪のように積み重なっていきます。その足跡に込められた思いを、サービス利用者のお一人にお伺いしました。

苦労した裁縫が今は私の支えです

私は長瀬野の和左内の新田孝太郎夫婦の長女として生まれました。母親が病弱なために、父が母の体を気遣い、本家を出て分家となって生活したそうです。父は百姓の手伝い、土方、大工をして生活をしていました。

私が九歳の時に母が亡くなり、弟が六歳、妹が三歳だったため、その時から母親の役目を幼い私がやらなければなりませんでした。

笑顔でお話してくださった
新田　巴さん（84）

ごはん作りから洗濯、裁縫もしなければなりません。昔は古い着物をほごして縫い直して着ていました。新しい着物を買うこともできなかったので、小さい私でも裁縫をしなければなりませんでした。

おばに裁縫を習い、最初はなかなか思うようにできず、何度も泣いた時もありましたが、弟や妹の着物を縫ってやらなければ可愛そうだと思い、頑張って覚えました。だんだんと上達してきて他の人の着物も仕立てられるようになってきました。仕立ても評判になり、いろいろな着物を縫ったものです。仕立て賃は米や味噌などに換えてもらい生活の足しにしました。そのころは忙しく大変だったけど、縫うことは楽しかったなぁ。

二十歳過ぎからいろいろと縁談もありましたが、家のことが心配で嫁には行きたいとは思いませんでした。だから今は一人だぁ。

母は若くして亡くなったけど父は九十歳近くまで長生きをしてくれたので、私なりに親孝行ができたと思っています。

最近では着物は縫うことがなくなりましたが、私を支えてくれているのは自分の手で覚えた裁縫だと思っています。

冬期はかたくりの園の居住を利用しています。居住の皆さんと話をしたり、職員の方から教えてもらったフクロウの飾り物作りに今は夢中になり、楽しい毎日を過ごしています。

器用な手つきからかわいいフクロウが
次々に生まれてきます

2007年 新年の抱負をひとこと

ぶなの園住民
高橋スミさん
(87歳)

『もっと字が上手になって本の書き写しをたくさんしたい』

ぶなの園住民
菅原ツエさん
(80歳)

『昨年よりもおしとやかにして笑ってすごしたい』

ぶなの園住民
石井イナさん
(93歳)

『丈夫になってもう少し歩けるように頑張りたい』

シリーズ

特養を考える 3

施設における介護事故

シリーズ『特養を考える』は、特養の解決困難な問題、サービスを提供する側の悩みをありのままお知らせするコーナーです。今回は施設における介護事故とその防止対策について、現状と課題を取り上げます。

めざすは『ゼロ』ではなく『安心』

入所している方が安全に、安心して過ごせるよう環境整備や援助をさせていただくことは私たち特養職員の責務です。転倒等の介護事故の予防対策もその一つです。

廊下やトイレへの手すりの設置、ふらつきの見られる方への歩行介助など、普段から転倒の予防は実施しています。しかし、転倒事故はゼロになることはありません。平成十七年度の転倒事故件数は、軽い尻もちや車イスからのずり落ち等も含めると約四十件。それ以外の事故も含めた総件数は七十件を超えます。

事故の危険性の高い住民の動きを抑制すれば、件数は確実に減るでしょう。車イス等に身体をベルト固定したり、ベッドから降りられないように四方を柵で囲んだり。しかし、このような身体拘束が特養における事故対策として適切でないことは言うまでもありません。

特養では毎月一回、及び大きな事故が発生した際に介護支援専門員、生活相談員、看護師、介護主任が集まって事故防止対策について話し合っています。大切なのは、事故の発生をゼロにしようと頑張ることではなく、防げる事故を確実に防ぐこと、転倒や転落をしてしまっても大きなケガにならないように配慮すること、そして事故が起きた際に迅速かつ適確に対応できる体制を整えておくことです。

事故防止対策について話し合う
特養の各職種職員

同じような事故を繰り返している住民について傾向を探ってみると、何らかの理由で精神的に不安定になった時に事故の危険性が高まります。つまり、その方の不安要素を取り除き『安心』して過ごしていただくことができれば、それが最善の事故予防なのかもしれません。

とは言うものの、限られた職員体制の中で、ある程度予測できる事故でさえ防ぎきれないのが現実…。高齢者はちょっとした転倒でも大ケガにつながる危険性が高いだけに、事故防止の理想と現実の狭間で悩みは尽きません。

特養生活相談員　高橋宏明

特別養護老人ホーム七峰荘（しちほうそう）

宿泊研修ご報告

家庭的な雰囲気が漂う
七峰荘の共有スペース

他の施設の取り組みや考え方を学ぶことは、自分たちが提供するサービスを客観的に評価し、見直すのに非常に効果的です。ぶなの園ではこの秋から冬にかけ、宮城県大衡村にある特別養護老人ホーム『七峰荘』に職員を派遣させていただき、他施設研修を実施しました。

ねらいは特養グループ対応の利用者満足度の向上。既存施設の空間を有効活用し、かなり前からユニット化に取り組んでいる施設です。より充実した研修にするために施設への宿泊を含めた二日間の研修内容とし、二名ずつ数回に分けて勉強させていただきました。次に紹介するのは参加した職員の感想の一部です。

- **各ユニットに個々の生活観があり、ゆったりした雰囲気を感じた。**
- **職員も私服であり、利用者との隔たりを感じなかった。**
- **職種を超えた連携が見られた。**
- **各ユニットのリーダーが中心的な役割を果たしている。**

研修先で刺激を受けただけでは収穫にはなりません。私たちが今しなければならないことに気付き、実践につなげていくことが大切です。ぶなの園なりの心地良い空間を追求していきたいと思います。

お忙しい中快く研修を受入れてくださった七峰荘の皆様、本当にありがとうございました。

地域との二人三脚

猿橋小学校寄贈のもち米でぶなの園も正月らしく!!

箱いっぱいのもち米が子どもたちから手渡されました

お正月のお供え物として欠かせない鏡もち。ぶなの園でも年始には玄関や施設内にお供えしています。この鏡もちによって施設内はお正月らしい雰囲気になり、住民の皆さんも職員も気持ちよく新年を迎えられます。実はこの鏡もち、猿橋小学校の児童の皆さんが育て、収穫したもち米で作られたものなのです。

猿橋小学校では全校生徒が携わって、近くの田んぼでもち米づくりをしているそうです。田植えから刈り取りまで、農業の大変さや喜びを感じながら収穫したもち米。その大切で貴重なもち米を毎年ぶなの園にたくさんご寄贈いただいております。

ご寄贈の際にはいつも児童の皆さんが大勢で来園し、唄や踊りのご披露も。今回はやすらぎ会文化祭のステージ出演をお願いしていたため、その発表後にステージでもち米をいただきました。

住民代表で受け取った猿橋一男さんはその重さにびっくり！思わず「うぉっ」と声が出ておりました。聞いたところによると今シーズンはいつもの半分くらいしか収穫がなかったとのこと。大変貴重なもち米を本当にありがとうございます。

きれいな鏡もちのできあがり

いただいたもち米で年の暮れには恒例のもちつき大会が盛大に行なわれ、皆さんでおいしくいただきました。勿論お正月の鏡もちも上手にできあがり、猿橋小学校の皆様のおかげで今年もよいお正月を迎えることができました。

やすらぎ会職員 事例研究発表会

九月二九日に開催された今年度の事例研究発表会への参加は全部で七チーム。各事業所でのさまざまな取り組みの過程や成果などが、それぞれの方法で発表されました。

職員内部研修の一つとして継続しているこの発表会は、自分たちの取り組みをじっくりと振り返ることができ、さらに事業所間の相互理解につながる貴重な機会となっています。

審査員長を務めていただいた高橋教育長様よりご感想等を頂戴しておりますのでご紹介します。

『やすらぎの心伝わる事例研究発表会』

西和賀町教育委員会
教育長　高橋　稔

昨年九月二九日、やすらぎ会の恒例になっております第八回事例研究発表会に審査員として参加させていただきました。関係者の皆さんの介護サービスの向上、改善に真摯に取り組んでおられる姿に接し、福祉・介護の仕事の深さを考えさせられた事例研究発表会でありました。

特養のチームでは
マネキンを使って説明

学校でもよく事例研究会を行ないます。いじめ、不登校、非行、障害児教育等について、一人の子どもを、または一つの問題をあらゆる角度から検討しそれを客観的に理解し、今後の指導のあり方を探ろうとするものであります。

子どもの発達をみても〇歳、十歳と年齢を重ねることにより、食、排泄、身辺の自立、社会性の発達など著しい変化があります。そして、その成長の速度は十人十色であり、個々に応じた指導のあり方が求められます。

「老いて子どもにかえる」、人は誰でも生まれてきた逆の過程を経て老いると言われます。認知症などによる家族、地域との人間関係の問題、身の回りのことが整理できなくなり、最後は食や排泄にも人の手が必要になることが多くあります。そして、年齢、今まで生きてきた生活の歴史、病気や障害の種類とその程度、それらがさまざまに絡み合い介護はまさに十人十色であります。

事例研究発表会では、利用者個々人の事例、排泄・食事の事例、訪問介護の事例、病院や家庭との協力の事例などそれぞれの内容が直接日々の介護に結びつくものばかりであり、整理された内容でありました。そして、どの事例発表を聞いても介護士さん達の利用者の方々に対する深い愛情や思いやりが伝わってくるものばかりでありました。

介護でも教育でも根底に人を愛する心のあるなしで方向性がまったく分かれます。今後も介護士をはじめ関係者の皆さんに、より一層利用者の「心」に伝わる仕事をしていただくことを期待いたします。

発表を見つめる
審査員の皆さん

和賀川 ③

かたくりの園
所長
高橋　公男

■福祉の現場で対人援助サービスに携わっていると、つい無意識に利用者に対して命令口調になったり、子ども扱い的言葉づかいになったりすることがある。

言葉は人と人との関係におけるコミュニケーション手段として、最も大切である。一つの言葉が人の心を和ませ、励まし、勇気づけ、閉ざされていた心の扉を開き、お互いの心を通わせ合うことがある。また、不用意な一言が相手の尊厳を傷つけてしまうこともある。

■かたくりの園では職員の重点目標の一つに、「コミュニケーション技術」の向上を掲げ、月一回の学習会や毎日のミーティングで、介護を受ける側の気持ちや立場になって話しかけているかどうかを再確認している。

人を敬う心を持つとともに、声の大きさ・話のスピード・イントネーション・会話をする時の笑顔などの「表現力」が重要であることを学びつつある。

華やかな花嫁道中を再現
第５回やすらぎ会文化祭

ゆっくりと会場に向かう花嫁と御一行

どれも心のこもった作品ばかりです

昨年度は事情により開催できなかったためやすらぎ会文化祭は２年ぶりの開催。ぶなの園の廊下等には利用者の皆さんの作品が数多く並べられ、11月11日は展示のみ、12日は展示とアトラクション等が行なわれました。

12日の午前は、はじめに特養からの発表。内容は９月に開催された法人事例研究発表会で特別賞を受賞した「排泄」援助に関する研究発表です。続いての『人生80年を生きる』と題しての講演は、講師に旧江刺市で在家僧侶をされている佐々木壽雄さんをお迎えしました。ご自身の経験を踏まえながら、人生を明るく楽しく生きるためのちょっとしたコツなどをおもしろおかしくお話してくださり、そのしゃべり口に会場内には絶えず笑い声。約１時間の講演時間は本当にあっという間でした。

午後からはアトラクション部門。オープニングは一昨年大好評だった「花嫁道中」を再現しました。衣装や唄のかけ合いも本格的、地域の方々のご協力により当時の雰囲気に近い行列を表現することができたと思います。その後のステージは北上アマチュアマジッククラブの皆さんによるマジックショー、猿橋小学校児童の皆さんによる踊りと続き、みつわ会の皆さんの踊りを最後に文化祭の幕が閉じられました。

大盛況のうちに終えることができたのは、多くのボランティアの方々、出演者の方々、そしてご来場くださった皆さんのおかげです。来年度もぜひお越しください。お待ちしております。

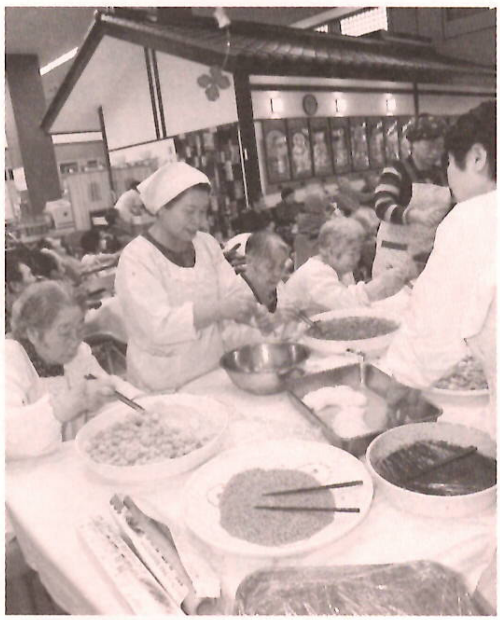
あゆみ

平成18年
９月～11月

9月1日　住民懇談会
　由利本荘市民生委員視察受入れ
5日　理容ボランティア
　課長会議
11日　菊池マツさん特養退所（ご逝去）
12日　主任会議
15日　住民の健康を祝う集い
19日　入所検討委員会
　課長会議
20日　ターミナルケア学習会
22日　秋の彼岸法要
23日　猿橋一男さん特養入所（猿橋）
24日　盛島チエノさん特養退所（ご逝去）
26日　県実地指導監査
27日　福田タマさん特養退所（ご逝去）
29日　事例研究発表会
10月2日　住民懇談会
　石井イナさん特養入所（湯本）
　泉川貞さん特養入所（大野）
3日　理容ボランティア
　サービス情報公表の調査
4日　サービス情報公表の調査
5日　課長会議
　西和賀高校窓拭きボランティア
6日　購入検討委員会
10日　主任会議
13日　「おおしま」出張販売
17日　課長会議
18日　「きらきら」紙芝居等
20日　ホーム喫茶
21日　農業まつり見学
23日　北上市民生委員視察受入れ
25日　紅葉狩りドライブ
26日　人権相談
27日　住民結核検診
　特養やきいも
28日　沢内中文化祭観賞
30日　介護職員健康診断
31日　評議員会・理事会
11月1日　住民懇談会
2日　課長会議
6日　法人内部監査
7日　理容ボランティア
8日　沢内中来園交流
11日　文化祭（展示のみ）
12日　文化祭
14日　中国訪日団視察受入れ
　主任会議
15日　「きらきら」紙芝居等
17日　デイぶな家族懇談会
21日　第一小総合学習
　課長会議
29日　第一小総合学習

表紙の写真

年末恒例の「もちつき大会」は大盛り上がり！民生委員さんらのお手伝いにより特養住民も交替でもちをつきました。『よいしょ、よいしょ！』と威勢の良いかけ声が響きます。つきあがったもちは割烹着を着けた住民が中心となっていろんな味付けに調理され、お昼においしくいただきました。



〔発行・編集〕
社会福祉法人やすらぎ会
広報委員会

□特別養護老人ホームぶなの園
□デイサービスセンターぶなの園
□ホームヘルプステーションぶなの園
□西和賀介護相談室
西和賀町沢内字太田２地割135番地
電話　0197－85－2322
FAX　0197－85－2317

□高齢者生活福祉センターかたくりの園
西和賀町沢内字大野17地割140番地１
電話　0197－85－3388
FAX　0197－85－3389

平成18年9月～11月

あたたかい善意を頂戴し厚くお礼申しあげます

【ご寄付】
- 菊池菊治様
- 盛島栄治様

【ご寄贈】
- 三浦武一郎様
- 西和賀町商工会女性部様
- 大島和夫様
- 菊池菊治様
- 高橋アヤ子様
- せんだん保育所様
- 黒渕二三子様
- 猿橋小学校様

【ボランティア等】
- どれみの会様　（洗濯たたみ等）
- 泉沢婦人会様　（ホーム喫茶）
- 長瀬野婦人会様　（健康を祝う集い）
- 民舞同好会様　（踊り）
- 高橋佑子様　（デイ支援）
- 高元睦子様　（デイ支援）
- 菊池正子様　（デイ支援）
- 田中サヨ子様　（デイ支援）
- 佐々木エリ子様　（デイ支援）
- 近藤優子様　（利用者介助）
- 高橋和子様　（趣味活動支援）
- おはなし「きらきら」様　（紙芝居等）
- 高橋吉二様　（車イス修理）
- 民謡保存会様　（唄、踊り）
- 高橋むつ子様　（デイ支援）
- 高橋文一様　（デイ支援）

編集後記

サッカー、ラグビー、駅伝、最近では格闘技。年末年始はスポーツのテレビ中継がめじろ押しです。「スポーツの秋」ならぬ「スポーツ観戦の年末年始」となっているのは私だけではないはず。

昔は、映像的に変化の少ない駅伝中継にはほとんど面白みを感じませんでした。それがいつからか、チームのために必死に走る姿に美しさを感じるようになり、たすきを繋ぐことができなかった選手の悔し涙にもらい泣きしそうになることも。歳をとった証拠なのでしょうか…。

W・T